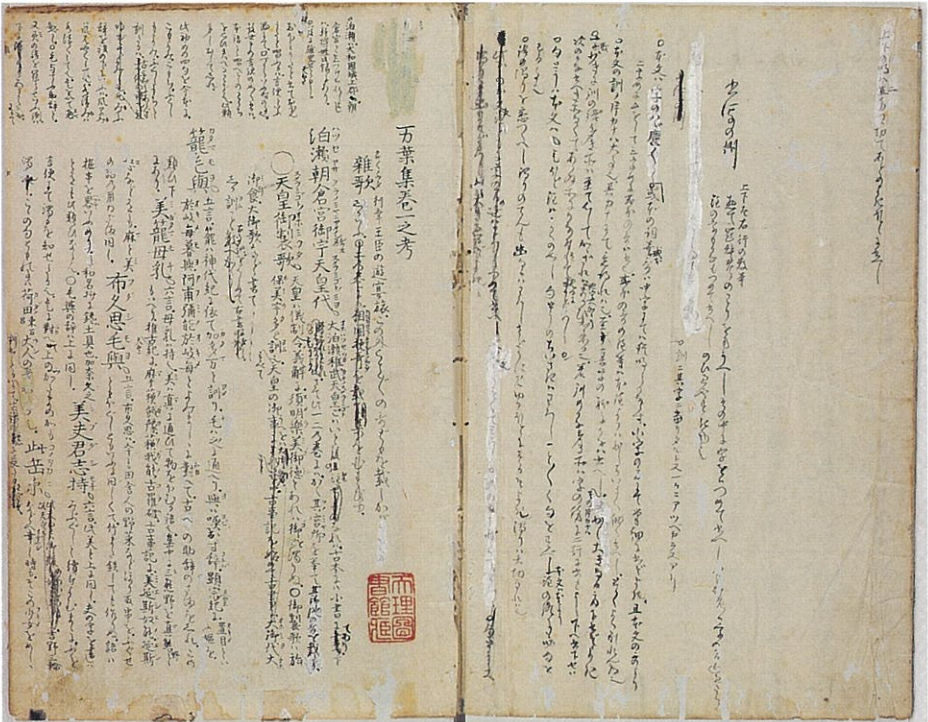


やまとの名品 天理図書館



まん よう こう
万葉考 (重要美術品)

賀茂真淵自筆
 宝暦10年(1760)頃 2冊
 縦27.5cm 横18.5cm

今年、賀茂真淵かものまがち（一六九七—一七六九）没後二百五十年です。かつては「松坂の一夜」の登場人物として知られた学者でした。

それは、宝暦ほうれき十三年（一七六三）五月二十五日の夜、真淵が伊勢神宮参拝の帰路に、旅宿へ面会を求めて訪ねてきた本居宣長に会い、即日入門を許し、古事記の究明を奨めるといふ筋書きです。生涯たった一度の対面に、師弟という人間関係の結縁が美しく描かれています。

真淵は、元禄十年、現在の浜松市の神職を務める家に生まれました。前半生は不遇だったこともあり、目ぼしい著作がまと

められたのは、

晩年に集中しています。学問の道が拓けるきっかけは、八代將軍徳川吉宗の次男で、松平定信の実父である田安宗武あそむねたけに仕えたことが大きいといえます。

国学者としての真淵の業績は、古代から平安朝にかけての古典に関する注釈書が多く、『万葉考』もその一つ。中世まで埋もれていた古代の歌集の、作者である万葉人の心と歌の調べに対する深い共感に立った評釈は、時に独断に過ぎる点も指摘され



ますが、その後の万葉集研究の隆盛への影響は甚大です。

出版された版本は、全二十四冊に及びますが、現存する自筆稿本は館

蔵の巻一・巻二の二冊分のみです。巻二の奥書によると、宝暦十年十二月に成りました。ただし、成稿後も本文の行間、および欄上・欄脚などに細密な書き入れがなされ、これをさらに胡粉・貼紙などによる加筆訂正が施されるなど、著者苦心の推敲の跡を留めています。

（天理図書館 三村 勤）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <https://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○1月の休館日：年始休館6日まで・26日・31日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）